



昔話とオニのおすすめの本



ねずみのよめいり【ワンダー民話館】

(文)小暮正夫 (絵)朝倉めぐみ

ねずみの親が自慢の娘を嫁にやる為、この世の中で1番強い者を探そうとします。まずは太陽のところに行き、雲、風、壁…。ねずみの娘は誰のところに行き嫁に行くのか…。

世界一強いお婿さんとはいったい…。

自分にとってかけがえのないものは…。

まさに灯台元暗し！身近なところにあるのかもしれないね。



つるようぼう【福音館書店】

(再話)矢川澄子 (画)赤羽末吉

本当に大切なものは何かを教えてくれる一冊。ゲームの世界を楽しんでいる子供達にこそ伝えたいお話。



ねずみきょう【童心社】(紙芝居)

(脚本)武士田忠 (画)渡辺有一

にせもののぼうさまからにせのお経を教えてもらったばあさまは、そうとは知らず、毎日お経をとなえていると、どろぼうがきて…。

「オンチヨロチヨロ…」

声に出して読むのが楽しく、何度でも読みたくなります。



おにはうちふくはそと【ひさかたチャイルド】

(文)西本鶏介 (絵)村上豊

節分に豆まきをする豆も買えない、ひどい貧乏暮らしのお百姓の夫婦。

豆は撒かず声だけで豆まきをすることにします。ところが、やけになって叫んだのは、「おにはうちふくはそと！」喜んでやってきた赤おに青おにと貧乏夫婦のおかしくて、ほのぼのとした交流のお話です。

「おには一うち、ふくは一そと」と繰り返すと、笑い声や「えーっ！」という声が上がって盛り上がります。

さいごは、ほんわかとあたたかい気持ちになれます。



ひなまつりにおひなさまをかざるわけ【教育画劇】

(作)瀬尾七重 (絵)岡本順

子どもの病気や災いを人形に移して川に流すという、ひな祭りの由来を、あたたかいお話にしたものです。ひな祭りといえば、豪華な人形を飾って、ケーキや華やかなご馳走を食べるものだと思っている子どもたちにも、ひなまつりに込められた切実な思いが伝わるのではないのでしょうか。



1日5分の読み聞かせむかしむかしね…【学習研究社】

(文)大津ちひろ(絵)篠崎三朗・石井聖岳

12話掲載。大きな本ではありませんが、挿絵は大きく読み聞かせでもみせられます。

擬音語や、登場人物によって文字の色を変えてあるので、読み聞かせ初心者も安心の1冊です。

(掲載作品:ももたろう、サルカニ、シタキリスズメ、

かえるとたまごととつくり、いっすんぼうし、

おむすびころりん、えすがたあねさま、

いぬとちやわん、はなさかじいさん、だんごどっこいしょ、

わらしべちょうじゃ、ねずみのよみせ)

